

子ども3人の未来守りたいのに 成長させられるか一番の苦しみ

生活保護削減は人命軽視

新潟 青年ユニオンが抗議会見

政府の生活保護基準切り下げに対し、いしがた青年ユニオンの山崎武史委員長は1月31日、生活保護受給者、福島からの避難者ら5人とともに新潟県庁で抗議の記者会見をおこないました。受給者らは今でも苦しい生活の実情を切々と訴え、「国は憲法25条の『健康で文化的な最低限度の生活』を保障すべきであり、生活保護の切り下げは人命軽視と言わざるをえない」と述べました。



抗議声明を発表する山崎委員長＝1月31日、新潟県庁

山崎委員長は、安倍首相に送る抗議声明を発表しました。組合員にとって生活保護は最後のセーフティーネットであり、生活保護切り下げは貧困の連鎖となり、断固抗議すると強調。受給者が増えている根本的原因は、低賃金で不安定な雇用の広がりにあり、労働者派遣法の改悪をはじめ労働法制の規制緩和を押し進めてきた政府こそ反省すべきだと指摘

し、労働法制規制強化、最低賃金の抜本的引き上げなどの政策転換を要求すると訴えました。新潟市東区の男性(31)は、昨年11月から生活保護を利用しています。運送会社の正社員ですが、給料は多い月で10万円。「3人の子どもの抱え、家族5人では生活できない。生保受給者への風当たりは強いが、子どもの未来にはかえられないと思う、利用しただけ」と言います。「自

分だけならよいが、子どもをきちんと成長させられるか一番の苦しみ。子どもたちにはあきらめさせたくない。夢も希望も持たせてやりたい。子どもの未来を守れない切り下げ政策にはノーと声を大にして言いたい」と話しました。

「家族5人で食費は月2万円です。やってきた」という女性(33)は、「保護費が削られれば食費を抑えるしかない。ものを食べるな、飲むなと言つてのどいっしょだ」と言います。「子どもは事情を察して、食べたいとおおかわりとも言われない。学校の教材費なども、あとになって学校から聞かされる。子どもが中学や高校の年齢になったら、ギリギリの生活でどうしたらいいのか。子どもに必要な金をあげられないのが、一番つらい」と訴えました。

精神障害になり、病状が安定しないで働けなくなった40代の女性は、「不安になって、夜も眠れず、睡眠剤を飲んで2時間くらいで目が覚める。このままなら死んだ方がいい」と、インターネットで自殺の方法を探し、どうやったら確実に死ぬのかばかり考えている。保護費が切り下げられれば、より自立が難しくなり、本当に死ぬしかないと思つていてと話しました。

いた男性(64)は、仕事を続けられなくなれば、コロッケを1つ減らすなど食事の質を落とすしかない。憲法25条などすばらしい理念があるのに、政治家には踏みこたない。政治的には踏みこたない」と述べました。